

## ユーザーからみた海洋スポーツの 需要に関する研究（1）

○酒井 哲雄（鹿屋体育大学）  
山口 泰雄（鹿屋体育大学）

海洋スポーツ 需要 リゾート レジャー活動

### 1. はじめに

わが国では、近年、余暇時代の到来といわれてきたものの、勤労者の実質労働時間には大きな変化がみられなかった。しかし、40年ぶりの法定労働時間に関する労働基準法の改正（1988年）と銀行の土曜閉店（1989年）により、今後、国民の余暇時間は確実に増加することが予測される。

さらに、労働時間の短縮要求や1988年6月の「総合保養地域整備法」（いわゆる「リゾート法」）の公布・施行により、日本列島がいま、空前のリゾートブームでわきかえっている。リゾート法の制定には、政府の内需拡大という狙いがあり、企業にとっては「重厚長大」型産業からの転換と有休地の再開発という目的がある。また、自治体はリゾート開発による地域活性化を期待している。しかしながら、リゾート開発計画は利用者不在で進められており、ユーザーである国民のレジャー活動の検証という作業が忘れられている。

海洋スポーツ・レクリエーションに関する調査・研究は、開発者側からの調査や事例報告は多くみられるものの、ユーザーの立場からみた研究はほとんどみられない。わずかに、渡辺・沼田（1986）が海洋レクリエーション活動の特性を報告し、（財）日本海事広報協会（1988）が海洋性レクリエーションの現状を発表しているものの、活動タイプの特性や需要などに関する分析は不十分である。本研究の目的は、海洋スポーツの需要をユーザーの視点から分析し、その特性とパターンを人口統計的要因と経済的要因から検証するものである。

### 2. 研究方法

#### 1) サンプル

本研究の対象は、1989年に開催された2つの地方博覧会（福岡市よかトピア、鹿児島市サザンピア）の入場者 331名である。サンプル特性としては、平均年齢31.0歳（SD13.0, MODE 21.0）、男子57.5%、女子42.5%であった。調査方法は、10項目による質問紙を作成し、あらかじめトレーニングを受けた調査員による面接法を用いた。調査期間は、1989年 3月25日より 5月10日までの 1.5カ月間である。

#### 2) 研究問題

本研究では、以下のような分析の視点から問題を設定した。

- (1) 海洋スポーツの実施経験と希望種目において、性差があるか？
- (2) 海洋スポーツの実施経験や希望種目と経済的要因との間には相関があるか？
- (3) 海洋スポーツの実施経験と希望種目において、世代差があるか？
- (4) 海洋スポーツ実施の阻害要因は何か？ また、性差はあるか？

#### 3) 分析方法

データ分析は、単純集計、クロス分析及びピアソンの相関分析を行った。有意差検定には、5%レベルの棄却域を適用した。

### 3. 結果

Table1は、海洋スポーツの経験と今後、実施したい種目を性別に表したものである。全体の経験が約5~20%という数字は、(財)日本海事協会の調査(1986)とほぼ同様な結果を示している。

次に、海洋スポーツの経験と今後、実施したい種目を世代別に分析した結果をまとめると、以下のようになる。世代間で統計的に有意差がみられたスポーツは、

(1)ヨット・ボート経験：10代、20代<30代以上 (2)水上スキー希望：10代、20代>30代以上、(3)大型客船希望：30代以下<40代、50代 (4)マリッジット希望：10代、20代>30代以上、(5)スクーバダイビング：30代以下>40代、50代。

Table 1 海洋スポーツ経験と実施したい種目

|   | ボート             | ヨット             | 大型客船           | ボードセーリング      | 水上スキー          |
|---|-----------------|-----------------|----------------|---------------|----------------|
| M | 35.5%<br>(15.8) | 19.1%<br>(20.2) | 13.7%<br>(7.1) | 7.1%<br>(8.7) | 6.5%<br>(9.8)  |
| F | 34.1%<br>(8.9)  | 9.6%<br>(15.6)  | 10.4%<br>(8.1) | 7.4%<br>(7.4) | 3.7%<br>(18.5) |
|   | スクーバダイブ         | サーフィン           | 水上オートバイ        | パラセーリング       |                |
| M | 6.3%<br>(26.2)  | 3.8%<br>(4.4)   | 2.7%<br>(21.3) | 0.5%<br>(7.1) |                |
| F | 3.0%<br>(32.6)  | 2.2%<br>(3.7)   | 2.2%<br>(11.9) | 0.7%<br>(5.9) |                |

1. ( )内は、今後実施したい者の割合
2. \*は、5%レベルで性差がある

Table 2 海洋スポーツ実施の阻害要因

| 順位 | 要 因     | %    |
|----|---------|------|
| 1位 | 時間がない   | 49.8 |
| 2位 | コストがかかる | 40.5 |
| 3位 | 施設がない   | 16.6 |
| 4位 | 仲間がいない  | 7.9  |
| 5位 | スクールがない | 6.6  |

N.S. (性差)

### 4. まとめ

地方博覧会の入場者 331名を対象に、面接法により、ユーザーからみた海洋スポーツの需要を分析した結果、以下のようによまとめることができる。

- (1)海洋スポーツの実施経験と希望種目において、性差がみられる。
- (2)海洋スポーツの実施経験と需要は、経済的要因との間で強い関連がみられる。
- (3)海洋スポーツの実施経験と希望種目において、顕著な世代差がみられる。